

女性が輝く社会づくりにつながるトイレ等の  
環境整備・利用のあり方に関する取りまとめ  
案

平成 29 年 3 月

女性が輝く社会づくりにつながるトイレ等の  
環境整備・利用のあり方に関する協議会



## 目 次

|   |    |
|---|----|
| はじめに .....  | 1  |
| 1. トイレの環境整備・利用のあり方 .....  | 3  |
| (1) 女性トイレの行列解消 .....  | 3  |
| (2) トイレの清潔性・快適性の向上 .....  | 4  |
| (3) トイレの安全・安心の確保 .....  | 5  |
| (4) トイレの情報発信 .....  | 5  |
| (5) トイレの利用マナーの啓発 .....  | 6  |
| 2. 授乳・調乳スペースの環境整備・利用のあり方 .....                                  | 9  |
| (1) 授乳・調乳スペースの設置 .....  | 9  |
| (2) プライバシーに配慮した授乳スペースの整備 .....                                  | 10 |
| (3) 授乳・調乳スペースの情報発信 .....  | 11 |
| 3. おむつ替えスペースの環境整備・利用のあり方 .....                                  | 13 |
| (1) おむつ替えスペースの設置 .....  | 13 |
| (2) 男女トイレでのおむつ替えスペースの確保 .....                                   | 13 |
| (3) おむつ替えスペースの情報発信 .....  | 14 |
| 4. トイレ、授乳・調乳スペース、おむつ替えスペースの好事例 ..                               | 16 |
| 5. アンケート結果 .....  | 35 |
| (1) 日常で利用するトイレに関するアンケート調査結果概要 ..                                | 35 |
| (2) 子ども連れで外出する際の授乳または調乳スペース、おむつ<br>替えスペースの利用等に関するアンケート調査結果概要 .. | 51 |



## はじめに

少子高齢化が進み、人口減少社会を迎える中で、我が国の持続的成長を実現し、社会の活力を維持していくためには、最大の潜在力である「女性の力」の発揮が不可欠である。

政府では、女性の力を一層引き出すためには日々の暮らしやすさを向上させることが基盤となると考え、女性活躍担当大臣の下、「暮らしの質」向上検討会を設置し、国民から提案募集を行った結果に対応する形で、「女性用トイレの行列解消」、「トイレの快適性・清潔性・安全性」、「授乳スペースの確保」、「トイレ・授乳室の情報提供」などを優先的課題とする提言を取りまとめた。

提言は、関係省庁の積極的な取組が期待されているところ、多くの公共空間を所管する国土交通省においても、「暮らしの質」の向上に資する取組について検討を行うため、平成27年6月に有識者、子育て等関連団体、施設設置管理者等団体を構成員とする「女性が輝く社会づくりにつながるトイレ等の環境整備・利用のあり方に関する協議会」を設置したところである。

協議会では、上記優先的課題を踏まえ、「女性トイレの行列解消」、「トイレの清潔性・快適性の向上」、「授乳・調乳スペースの設置」、「男女双方トイレへのおむつ替えスペースの確保」などを検討項目として、これまで2回の協議会（平成27年6月11日、平成29年1月20日）と2回のワーキンググループ（平成27年11月16日、平成28年3月1日）を開催し、トイレ、授乳・調乳スペース、おむつ替えスペースの利用や環境整備のあり方について検討するとともに、「日常で利用するトイレに関するアンケート調査」や「子ども連れで外出する際の授乳または調乳スペース、おむつ替えスペースの利用等に関するアンケート調査」を行ってきた。

トイレについては、年齢を問わず誰もが利用するものであり、その善し悪しが女性の社会参加に影響を与えても過言ではなく、また、子ども連れでの外出では授乳・調乳スペースやおむつ替えスペースの有無が外出先を決める要因にもなりうるなど、活発な議論が行われてきた。

ここに、これまでの議論やアンケート調査結果などを踏まえた、トイレ、授乳・調乳スペース、おむつ替えスペースに関する現状と課題を整理し、その解決に向けてどのように取り組むのが望ましいことなのかを、本協議会の取りまとめとして示すものである。

なお、トイレ等の設備（ハード面）や情報発信（ソフト面）の充実については、現状においても積極的に取組が進められているが、各施設設置管理者には、トイレ等の質・量を向上させるためのスペースを確保するのが困難であることや、費用対効果等経営上の観点からコスト的な制約があることに留意するべきである。

## 1. トイレの環境整備・利用のあり方

### (1) 女性トイレの行列解消

#### 《現状と課題》

外出先でトイレを利用するにあたって、駅以外の交通施設や大規模商業施設といった、女性がよく利用する場所にあるトイレでは、混雑していないことを重視する意見が多い。なかでもほとんどの女性がよく利用する大規模商業施設においては、トイレを利用するために行列に並ばなければいけないことを不満に思っている女性の人数が多いことから、行列が常態化している可能性が考えられる。

その要因としては、当該施設の利用者数が増えるなどにより、トイレ利用者数に見合った個室便房数となっていないことなどのほか、和式便房が空室であっても利用しない人が多いことや、個室便房内で身だしなみを整えたり、化粧や着替えをするなど、用足し以外の目的で利用している人がいることなどが考えられる。

つまり、行列解消のためには、個室便房の数を増やすことが最も効果的であると言えるが、そのためには既存スペースを拡張する必要があることや、施設の新設の場合であっても、本来の事業用途のためのスペースとの兼ね合いなど空間的な制約と、設備投資というコスト的な制約があることに留意する必要がある。

#### 《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、施設の新設や改修のタイミングで、施設の利用実態（予測）を踏まえた、行列が発生しない程度の便器数を確保することや、和式便房の空室が行列の要因のひとつとなっている可能性も踏まえ、便器数の確保にあたっては洋式便房を基本とすることが挙げられる。

また、施設設置管理者ごとの空間的な制約やコスト的な制約に応じて取り組むのが望ましいこととして、施設の新設や改修のタイミングで、トイレの広さや施設の利用者構成に応じた男女別の便器数のバランスや施設利用者の行動を予測したトイレの適切な設置場所などについて検討することが挙げられる。

そのほか、個室便房内を用足し以外に利用することが行列発生の一因の一つと考えられることから、個室便房とは別のフィッティングルームや、手洗い場所とは別の、化粧直しや身だしなみを整えることができるパウダーコーナーやパウダールームを整備することも有効である。

なお、便器数の確保にあたり洋式便房を基本としているが、広さに余裕があり、かつ個室便房数が多い場合は、和式便房の利用ニーズも一定程度あることを踏まえて、一部を和式便房とすることが望ましい。

さらに、上記行列解消のための取組のほか、混雑や行列が常態化しているトイレにおいてその旨を明示するとともに近隣トイレへの誘導を促す案内板を設置することや、近隣施設と連携して互いのトイレに誘導できるシステムの構築をすることも有効な取組と考えられる。

一方、イベント開催時など一時的に需要が急増する場合には、洋式便房を基本とした仮設トイレを設置することも行列解消につながる有効な取組であると考えられる。

## (2) トイレの清潔性・快適性の向上

### 《現状と課題》

外出先のトイレは昔よりは綺麗になったという声はあるものの、女性は依然として清潔性を重視している。特に公園等の公衆トイレや駅のトイレに対して、清潔感がない、清掃が行き届いていないことを不満に感じている人が多い。

トイレの清潔性を保つため、清掃回数を増やすなど積極的に取り組んでいる施設設置管理者もいるが、利用者が多い施設では、トイレが混雑しているため、結果として清掃回数が足りていないのではないかと考えられるところがある。

また、トイレ機能の高度化に伴い、使用方法や操作方法が複雑化してきたため、使用方法がわからない、操作を間違えてしまうという声があるほか、近年増加している訪日外国人にとっては日本のトイレの正しい利用方法がわからないということも考えられる。その結果、用を足した後、水を流さずにそのままにしておくなど、次の利用者に不快感を与えてしまう場合も増えている。

一方、トイレの快適性について、女性に比べて男性の方が温水洗浄便座や暖房便座がないことに不満や不便を感じている人が多いのに対し、個室便房のみを使う女性にとっては、擬音装置の有無を気にする人が多いのではないかという意見がある。

なお、温水洗浄便座などの付属設備は、故障、破損の可能性があるため、そうした場合には快適性を損ねることになりかねないが、施設設置管理者にとっては、修理やメンテナンスなど費用負担が増えるという事情があることにも留意する必要がある。

### 《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、トイレを清潔な状態で維持するため、定期的な清掃の回数を増やすことが挙げられる。また、トイレの新設や改修のタイミングで、便器や床、壁に汚れにくい素材や乾燥しやすい素材を採用することや、和式便器は飛びはねなどにより洋式便器の床よりも汚れやすいことから洋式便器の設置を基本とすることも挙げられる。

そのほか、訪日外国人を含めた全ての利用者にトイレを清潔に使用してもらうため、イラストの活用や多言語表記などにより、誰にでもわかりやすい操作方法や利用方法を表示することも効果的である。

快適性の向上に関する方向性については、外出先のトイレに対し、設備の充実よりも清潔性を重視している人の方が多いという現状を踏まえつつ、施設設置管理者のコスト的な制約等個々の事情に応じて進めることが望ましい。

具体的には、温水洗浄便座や暖房便座、擬音装置といった便器の付属設備の設置や、不特定多数の人が便座に触れる外出先のトイレの清潔性に不満を感じるという意見もあることから、除菌クリーナーや便座シートなどを設置することなどが考えられる。そのほか、利用者がトイレをより快適に使用できる備品（汚物入れ、ハンドソープ、温風乾燥器、消臭剤など）を設置するなどの取組も有効であろう。さらには、個室便房内での化粧直しや着替え、共用の手洗い場所での化粧直しなどは自身にとっても快適であるとは言いがたいとともに、行列発生の一因ともなることから、これら用足し以外の他目的利用を防止するため、個室便房とは別のフィッティングルームの整備や、手洗い場所とは別に、化粧直しや身だしなみを整えることができるパウダーコーナーやパウダールーム

ムを整備することも有効な取組である。。

### (3) トイレの安全・安心の確保

#### 《現状と課題》

大規模商業施設以外のトイレについて、周囲の環境により安心して利用できないという女性が多い。特に、公園等の公衆トイレに対して、そうした不安を感じている声が女性のみならず男性からも多く寄せられている。

これは、人通りの少ない場所や薄暗い場所にトイレが設置されていること、防犯の設備や体制が整備されていないことなどが要因ではないかと考えられる。

こうした不安を解消するためには、既存のトイレを別の場所に移すことが有効であると考えられるが、施設設置管理者にとって新たな設置スペースを確保することは空間的・コスト的な制約から、容易なことではない。

しかしながら、トイレは犯罪の温床になりやすいと言われていることから、そのようなトイレが少しでも減るよう取り組むことが望ましい。

#### 《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、トイレ施設内や周辺の暗さは利用者の不安感を増大させ、不審者に好都合な状況ともなることから、トイレ施設内やその周辺の明るさを確保することや施設設置管理者等による定期的な巡回の回数を増やすことが考えられる。例えば、清掃も兼ねた巡回を実施することで、清潔なトイレ環境の維持と防犯のための見守りを同時に行うことができるのは効率的かつ効果的だと言えるだろう。

個々の事情に応じた方向性としては、新設や改修のタイミングで、人通りの少ない場所にトイレを設置しないことや、トイレの出入口やレイアウトに死角を作らないようにするなど、設計段階からトイレの設置場所や配置に工夫することが望ましい。

また、出入口への監視カメラの設置や、個室便房内に防犯ブザーを設置するなどの取組は、利用者の不安を軽減させるほか、犯罪の抑止にもつながると考えられる。

そのほか、キャリーケースなど大きな荷物を持ったままトイレに入ろうとする場合に、個室便房内に十分な広さがなければ共用空間に荷物を置いたままトイレを利用しなければならず、盗難の恐れもあることから、共用空間に盗難防止措置を講じた荷物の置き場所を整備することや個室便房内に荷物を置くことができる広さを確保することも有効である。

なお、安全・安心な利用が確保され、清潔かつ快適に利用できる環境が整っているのであれば、料金を支払ってでも（有料トイレ）利用したいという声もある。

### (4) トイレの情報発信

#### 《現状と課題》

駅などの交通施設や、大規模商業施設などトイレを利用すると答えた人が多い施設では、トイレがどこにあるかわからないという意見が多い。また、近隣

トイレの有無や場所が分からないことから行列に並ばざるを得ない状況があることや、トイレ機能の高度化に伴い、トイレの使用方法や操作方法が複雑化していることから、水の流し方や鍵のかけ方がわからないという不満もある。

これらの意見及び不満の声は、トイレ利用者が必要としている情報を十分に提供できていないことが原因と考えられることから、施設設置管理者は利用者のニーズを満たす多様な情報発信に取り組むことが望ましい。しかしながら、例えばトイレの使用状況が刻々と変化する施設では、「空き状況」と「混雑状況」の情報をリアルタイムで提供することが難しい場合もあり、余計な混乱を招きかねず、そのことが利用者の不満につながる恐れがあることから、施設設置管理者は正確な情報の把握と提供が必要になる。

### 《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、まず、トイレの情報発信は、混雑の緩和のみならず、利便性向上にも資するという観点から、トイレの位置情報に加え、設置されている設備や備品等の情報も併せて提供することが考えられる。具体的には、位置情報を発信する際には、広い施設内で利用者が迷うことなくトイレへ行くことができるよう案内板を複数箇所に掲示することや、施設のフロアマップやホームページサイトにトイレの位置情報を掲載するなどの取組が考えられる。また、設備情報を発信する際には、トイレの出入り口付近に、内部のレイアウトだけではなく便器数や乳幼児用椅子など設備の設置状況も一緒に掲示することが有効であろう。さらに、頻繁に行列が発生しているトイレについては、出入り口等にその旨を掲示するとともに、近傍のトイレの場所とその利用を促す案内を掲示することも有効な取組だと考えられる。

個々の事情に応じた方向性としては、当該施設のIT環境が整っている場合には、これを有効活用した取組、例えば、電子案内板へのトイレの位置情報や便器数等の設備設置状況、リアルタイムの混雑状況の情報の掲載などの取組が考えられる。

また、地域や周辺施設と連携して一般利用も可能なトイレマップを作成することや、トイレの位置及び設備設置状況等の情報が検索できる既存アプリに、施設のトイレに関する情報を登録し、施設の利用者へ発信するなどの取組も有効であろう。

## (5) トイレの利用マナーの啓発

### 《現状と課題》

外出先のトイレは、施設設置管理者の努力により、質・量ともに充実してきたと言える一方で、利用者のマナーの問題で、清潔性や快適性が損なわれているという意見もある。具体的には、利用者自身のモラル不足や、綺麗に利用したいけど操作方法がわからない場合、訪日外国人が日本のトイレの正しい利用方法を知らない場合などである。

外出先のトイレは多くの人々が利用するからこそ、自分だけではなく次に使う人にも配慮する必要があるが、マナーの問題は、個々の利用者の意識に委ねられる部分が多い。例えば、個室便房内で、携帯の使用や化粧直し、着替えな

ど用足し以外の利用目的で長時間居座ることや、便器や床を汚しても掃除をしない、手を洗う際の水の飛びはねを拭き取らないなどは、利用者のモラルの欠如そのものの問題と言える。

一方、トイレ機能の高度化に伴い、使用方法や操作方法が複雑化したことで、それが分からない利用者がある場合や、近年増加している訪日外国人が、日本のトイレの正しい利用方法を知らない場合などは、施設設置管理者が必要な情報を適切に発信することで改善が図られると考えられる。

### 《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、利用者のモラル向上を啓発するために清潔な利用を呼びかけることが挙げられる。例えば、「トイレを汚さずに使用する」、「化粧直しや着替え等の用足し以外の利用を控える」等利用者に対して注意を喚起するポスター等を個室便房内に掲示するなどの取組が考えられる。また、イラストの活用、多言語表記などにより、誰にでも分かりやすいように使用方法や操作方法を伝えることも有効と考えられる。

## 【参考】国交省所管分野で働く女性にとってのトイレに関する取組

### ○建設現場における「快適トイレ」設置の原則化

国土交通省では、建設現場において、女性技術者等に不評であったトイレについて「快適トイレ（男女ともに活用しやすいトイレ）」を原則化することとし、洋式便座や衣類掛け等のフックまたは荷物置き場の設備や便座除菌シート等の衛生用品などを必ず備えることとする「快適トイレ」の標準仕様を決定し、平成 28 年 10 月 1 日以降に入札手続きを開始する直轄工事から導入するとともに、「快適トイレ」事例集を取りまとめ、公表している。

### ○業界団体への働きかけ

- ・国土交通省では、公益社団法人全日本トラック協会と連携し、女性トラックドライバーの労働環境の改善に関する取組として、平成 26 年 10 月にコンビニエンスストア関係、ガソリンスタンド関係、倉庫業関係、トラックターミナル関係などの業界団体にトイレの使用などについて配慮を求める協力要請を行っている。

### ○パンフレットやマニュアルの作成

- ・国土交通省と公益社団法人全日本トラック協会は、平成 26 年 9 月に女性ドライバー等の採用のポイントと取組事例をまとめたパンフレットを作成し、女性が働きやすい環境の整備として、女性用トイレの設置もしくは専用のトイレがない場合は共用トイレの 1 箇所を女性専用に変更するなどのポイントを掲げており、トイレという環境整備からも女性ドライバー確保のた

めの取組を進めている。

- ・建設業においては、一般社団法人全国建設業連合会では平成 27 年 3 月に「建設業における女性の活躍の場の拡大へのロードマップ」を、一般社団法人日本建設業連合会では平成 27 年 4 月に「「けんせつ小町」が働きやすい現場環境整備マニュアル」を作成し、女性技術者や技能者の入職・定着促進のために女性に配慮したトイレの整備などの取組を掲げ、女性が働きやすい現場環境の整備を進めている。

## ○事業者の取組例

### ・女性タクシードライバー向けトイレマップの作成

国際自動車株式会社では、会社独自の取組として、女性ドライバーからの情報を元に、使いやすい公衆トイレなどの情報を反映させた「レディースマップ (km トイレマップ)」を制作し、女性ドライバーに配布するなど積極的な取組を行っている。

### ・建設現場における女性専用休憩スペースの開設

東急建設では平成 27 年 10 月、「渋谷駅南街区プロジェクト」の敷地内に女性専用トイレやエアコンが完備されたパウダースペースなど女性の視点からの設備や工夫を導入した女性専用の休憩スペース「南街ステーション」を設けた。

## 2. 授乳・調乳スペースの環境整備・利用のあり方

### (1) 授乳・調乳スペースの設置

#### 《現状と課題》

外出先に授乳・調乳スペースがある場合は、これを利用する人は多く、特に商業施設での利用率は高くなっている。他方、外出先に授乳・調乳スペースがない場合は、女性では「授乳ケープを利用する」、男性では「車内で対応する」、男女共通では「スペースがある場所まで我慢して移動する」という声が多く寄せられている。

また、女性からは、交通施設では授乳・調乳スペースがないことに不満を感じている意見が最も多く、商業施設ではスペース内にベビーカーや荷物を置ける広さがないことに不満を感じている意見が最も多い。男性からは、利用可能なスペースでも気軽に入れる色使いがされていないことに不便、不満を感じる意見が多い。

さらには、授乳・調乳とおむつ替えを同じスペースで行うことを想定している施設もあり、そういう施設を利用する人からは、食事（授乳・調乳）と排泄（おむつ替え）の世話を同じ空間で行うことに不満を感じるという声もある。

一方で、施設設置管理者には、当該施設の規模の大小や、利用者が施設に留まる時間など費用対効果の面から整備すべきかどうかを判断しなければならないというコスト面での制約や、授乳・調乳スペースを設置できるだけのスペースを確保できるかという空間的制約があり、それらを踏まえて設置を検討しなければならないことに留意する必要がある。

#### 《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、施設の新設や改修のタイミングにおいて、授乳・調乳スペースの設置を検討することが挙げられる。なお、トイレとは異なり、すべての施設にその設置が義務付けられていないという状況を鑑み、施設規模の大小や施設の利用者数などに応じ施設設置管理者が優先順位をつけて検討を進めることが望ましい。また、設置の検討にあたっては、ベビーカーや荷物を置ける広さを確保することや、衛生面の観点から授乳・調乳スペースとおむつ替えスペースをある程度の空間的隔たりを設けた配置とする配慮が必要である。

さらに、授乳・調乳スペースには、女性や男性及び子どもが座るための椅子や、調乳に必要な給湯器、洗面台などの設備を設置することが望ましい。

なお、例えば、粉ミルクを調乳する際には、適切な温度の湯を使用しなければ、子どもの健康に影響が及ぶ恐れがあることから、給湯器の温度管理や衛生面にも注意を払う必要があるという意見もある。

また、男性が利用可能なスペースであっても、女性利用を連想させる色使いは、男性にとっては利用することに抵抗を感じることも考えられるため、そうしたことへの配慮も必要である。

個々の事情に応じた方向性としては、スペース確保やコスト面からの制約で授乳・調乳スペースの設置が困難な場合には、利用者の求めに応じ、他の既存スペースを一時的に提供するなどの取組が考えられる。ただ、授乳・調

乳スペースがない場合に施設内のほかのスペースを使わせてもらうように申し出る人は多くないことがアンケート調査結果からうかがえるが、利用者にとっては既存スペースの提供の可否がわからないことや、自ら申し出ることには抵抗を感じる人もいると考えられることから、他の既存スペースの一時的提供の取組を実施する施設設置管理者は、案内板等でその旨を積極的に知らせるなどの取組もあわせて実施することが有効であろう。

また、小さな子どもを連れて外出する場合は、ベビーカーを利用したり、荷物が増える場合も多いことから、授乳・調乳スペース内に、それらの置き場所を確保することが望ましい。その際には、他の利用者の動線を妨げないことや盗難の心配がないよう配慮することが望ましい。

さらには、授乳・調乳スペースで、リラックスして子どもにミルクを与えることができるように、ゆったりとかけられるソファを設置する、落ち着いたBGMを流す、授乳後の身繕いのための鏡や、授乳後の水分補給のため、飲料の自動販売機を設置するなど、より快適な授乳・調乳スペースとなるような取組を行うことも有効であろう。

## (2) プライバシーに配慮した授乳スペースの整備

### 《現状と課題》

男性からは交通施設や商業施設に限らず家族で使える個室スペースがないという不満の意見が多い。また、女性が子どもに直接母乳を与える場合であっても他の母親とコミュニケーションを図るために共同スペースを望む場合があり、その時の状況で個室や共同の授乳スペースを選択したいという意見がある。

子どもに直接母乳を与える女性にとっては、男性も利用可能なスペースが同じ空間にありスペースの仕切りがカーテンだけの場合などは、男性が誤って入室するかもしれないという不安を抱き、また男性自身にとっても女性への配慮からスペースを利用することを敬遠してしまう可能性が考えられる。

また、男性の育児参加促進の観点から男性が利用可能な授乳スペースの普及が求められており、さらには、授乳スペースを家族で利用するために個室化を望む場合や、女性によっては子に直接母乳を与えながら他の母親とのコミュニケーションも図るため共同スペースを望む場合など、利用者によって様々なニーズがあることに留意する必要がある。

### 《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、女性が子どもに直接母乳を与える場合にプライバシーを確保するため当該スペースと他のスペースとの仕切りを壁や扉等により明確に区分することや、子どもに直接母乳を与えている間は男性が誤って入室したりしないよう、当該スペースの入口や仕切り部分にはっきりとその旨を表示するなどの取組も有効であろう。

なお、授乳スペースの設置を検討する際には、不審者の進入防止など防犯上の観点から、人があまり通らない場所や施設内の死角には設置しないようにすることも重要である。

また、授乳・調乳スペースを利用するタイミングとして、例えば、交通施設の場合は外出先に向かう通過点であることが多く、商業施設の場合は目的地として長時間滞在している途中で利用するが多い。施設設置管理者は、利用者がどのようなタイミングで授乳スペースを利用するかを踏まえつつ、自らが抱える空間的・コスト的な制約など個々の事情に応じて、プライバシーに配慮した授乳スペースや、利用状況に応じて選択できよう授乳スペースの整備に取り組むことが望ましい。

### (3) 授乳・調乳スペースの情報発信

#### 《現状と課題》

授乳・調乳スペースが整備されていても、どこにあるのかわからないという意見は多く、商業施設よりも交通施設においてその比率が高い。商業施設の場合は子ども用品売り場と同じ階に授乳・調乳スペースが設置されていることが多いため、利用者はどこにあるか予想がつきやすく交通施設に比べて不満の声は少ないと考えられる。

また、位置情報のほかにスペース内の設備情報を求める声や、男性も利用可能なのかわからないなどの不便・不満、利用者の誤進入防止のための授乳・調乳スペースの表示の明確化を望む声がある。

#### 《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、授乳・調乳スペースを整備している施設設置管理者が、その位置情報及びスペース内の設備情報を利用者に対して提供することが挙げられる。具体的な手法としては、例えば、位置情報を、フロアガイドに掲載することや、ベビーカー利用者がフロア移動の際に使うエレベーター近くの案内表示板等に掲示するなどの取組が、設備情報については、授乳・調乳スペースの入口付近に、内部レイアウト及び給湯設備や流し台等のような設備がどのように配置されているのかを掲示するなどの取組が、利用者の利便性の向上につながると考えられる。

また、誤進入防止については、家族利用が想定される個室の入口付近に「家族利用可」、利用が女性に限定される共同スペースの入口付近には「男性入室不可」などを明確に表示するなどの取組が考えられるほか、子に直接母乳を与えるスペースと男性利用が可能な授乳・調乳スペースを備える施設では、男性利用にも配慮し、スペース全体の入口に男性の利用が可能な空間範囲を表示するとともに、各スペースの入口にも明確な表示をすることが有効な取組だと考えられる。なお、明確な表示という点で、授乳、調乳それぞれの行為が一目で分かるマークの使用や、平易な説明、多言語表記などの工夫にも取り組むことが望ましい。

子ども連れの利用客が多い施設では、授乳・調乳スペースが頻繁に利用されることが見込まれることから、上記以外にも、個々の事情に応じて以下のような取組がなされることが望ましい。

当該施設のIT環境が整っている場合には、例えば、電子案内板に授乳・調乳スペースの位置情報や設備設置情報を掲載するなどの取組が考えられる。

また、地域や周辺施設と連携して一般利用も可能な授乳・調乳スペースのマップを作成することや、さらには授乳・調乳スペースの位置や設備設置情報が検索できる既存アプリに施設の授乳・調乳スペースに関する情報を登録し、施設の利用者に発信するなど、当該施設単独での情報発信に限らない取組も有効だと考えられる。

### 3. おむつ替えスペースの環境整備・利用のあり方

#### (1) おむつ替えスペースの設置

##### 《現状と課題》

交通施設や商業施設にあるおむつ替えスペースを利用する人は男女ともに多いが、そうした人たちからは、おむつ替えと自分の用足しを一度にできないという意見が最も多いほか、男女別、施設別で順位は異なるが、「必要な設備がない」、「清潔感がない」、「ベビーカーや荷物を置く広さがいい」などの不満を感じているという意見が多く寄せられている。

また、女性からは交通施設に対して、おむつ替えスペースがないという意見が多く、男性からは交通施設と商業施設のいずれにおいても「どこにあるか分からない」、「男性が利用可能なスペースであっても気軽に入れる色使いがされていない」という意見が、一定数寄せられていることにも留意する必要がある。

さらには、男女ともに、商業施設よりも交通施設に対して、衛生面から必要と思われる設備や備品の設置を望む意見が多い。

##### 《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、施設の新設や改修のタイミングで、おむつ替えスペースの設置を検討することがまず挙げられる。なお、授乳・調乳スペースと同様、すべての施設にその設置が義務付けられていないという状況を鑑み、施設規模の大小や施設の利用者数などに応じた優先順位をつけて検討を進めることが望ましい。

また、おむつ替えスペースは男性の利用も可能であることから、男女ともに利用しやすい色使いとするほか、ベビーカー利用が増えていることや小さな子どもを連れた外出は荷物が多いことなどに配慮した取組が必要である。例えば、交換台の配置によっては、空いている交換台が荷物やベビーカーの置き場に利用されることで本来の利用を妨げる場合もあることから、おむつ交換台の間隔や配置に工夫をこらすなど、不要な混雑を防ぎ、おむつ替えスペースの円滑な利用が可能となる取組が望ましい。

さらに、おむつ替えは排泄行為であることから、衛生面への配慮も重要である。例えば、使用済おむつを持ち歩かないですむようおむつ用ごみ箱を設置することや、おむつ替え後に手を洗うための洗面台の設置などが有効であろう。

なお、衛生面での影響が出ないようにおむつ替えスペースと授乳・調乳スペースは別ゾーンに設置するなど空間的に分離することも考えられる。

#### (2) 男女トイレでのおむつ替えスペースの確保

##### 《現状と課題》

(トイレと独立した)おむつ替えスペースを利用する際の不満や不便として、「おむつ替えと自分の用足しを一度にできない」という意見が男女ともに多く寄せられていることから、トイレにおむつ替えスペースを確保するニーズは高いと考えられる。

特に、男性の積極的な育児参加を促進する上で、外出先で男性が子どものおむつ替えをすることができる環境を整備することが重要であるが、3(1)で述べたとおり、男性が利用できる(トイレと独立した)おむつ替えスペースで

あっても、気軽に入れる色使いがされていないという声があるほか、トイレのおむつ換えスペースが女性用トイレのみに設置されていることが多いことから、男性用トイレへのおむつ替えスペースの設置を求める意見が多い。

さらに、「トイレの共用空間にベビーカーや荷物を置く場所がない」、「個室便房にベビーカーも一緒に入ることができない」ことに不満・不便を感じている人が多いことにも留意する必要がある。

そのほか、「トイレの共用空間に設置されたおむつ替えスペースを利用する場合に、他のトイレ利用者の視線が気になる」という意見や、「必要な設備（おむつ用ごみ箱など）がない」という不満の声が寄せられている。

なお、交通施設のトイレに設置されているおむつ替えスペースに対して「清潔感がない」という意見が多く、これはトイレ自体の清潔性に拠るところが大きいと推測される。

### 《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、既存トイレの改修が不可欠であるという空間的な制約があることや、施設設置管理者によっては、施設規模の大小や施設の利用者数に応じた優先順位をつけて検討を進める場合があり得ることも踏まえ、個々の事情に応じた方向性として、まず、女性トイレだけでなく男性トイレにもおむつ替えスペースを設置することが挙げられる。さらには、男性トイレか女性トイレかに関係なく望ましい取組の方向性として、トイレのおむつ替えスペースにはおむつ交換台だけでなく、立ったままおむつを替えられるフィッティングボードや補助便座など子の年齢に応じて世話ができる設備も設置することが挙げられる。

また、トイレの共用空間にあるおむつ替えスペースについては、他人の視線が気にならないよう、カーテンなどによる仕切りや、トイレ利用者の動線を踏まえた配置をするなどの取組が考えられるほか、子ども連れの利用が多く、かつ滞在時間が長い施設においては、大人用トイレとは別の子ども用トイレや子ども用手洗いを整備するなどの取組も望ましい。

さらには、ベビーカー利用が増えていることや子ども連れでの外出は荷物が増える場合が多いことにも配慮する必要がある。例えば、共用空間のおむつ替えスペースでは、他の利用者の動線を妨げないような場所に盗難防止措置を講じたベビーカーや荷物の置き場所を確保するなどの取組が有効だと考えられる。

そのほか、個室便房内におむつ替えや補助便座の設備を設置する場合はベビーカーも一緒に入れる広さを確保するとともに自分の用足しの際に子どもを座らせることができる乳幼児用椅子を設置するなどの取組が有効だと考えられる。

## (3) おむつ替えスペースの情報発信

### 《現状と課題》

交通施設に対しては女性、男性ともに、「どこにあるのかわからない」という意見が多く、男性からは商業施設に対してもその不満は多い。また、交通施設、商業施設ともに「スペース内にどのような設備があるかわからない」という不満が同程度寄せられている。さらに男性からは交通施設、商業施設ともに「男性が利用可能なスペースでも、気軽に入れる色使いがされていない」という意

見が多い。

### 《取組の方向性》

上記課題を解決するために望ましい取組の方向性としては、おむつ替えスペースを利用しやすいように適切に情報を提供することが挙げられる。例えば、おむつ替えスペースの場所情報を提供する場合には、当該情報をフロアガイドへ掲載することや、ベビーカーを利用する際にフロア移動のためよく使われることが予想されるエレベーター近くの案内表示板等へ掲示するなどの取組が有効だと考えられる。また、設備情報については、おむつ用ごみ箱や手洗い台などの設置状況と内部のレイアウト図をスペースの入口付近に掲示するのはもちろんのこと、上記フロアガイドやエレベーター近くの案内表示板等にも掲示することが、利用者の利便性の向上につながる取組と考えられる。

また、子ども連れの利用客が多い施設では、おむつ替えスペースが頻繁に利用されることが見込まれることから、上記以外にも、個々の事情に応じて以下のような取組がなされることが望ましい。

当該施設のIT環境が整っている場合には、例えば、電子案内板におむつ替えスペースの位置情報や設備設置情報を掲載するなどの取組が考えられる。また、地域や周辺施設と連携して一般利用も可能なおむつ替えスペースのマップを作成することや、さらにはおむつ替えスペースの位置や設備設置情報が検索できる既存アプリに当該施設のおむつ替えスペースに関する情報を登録し、施設の利用者に発信するなど、当該施設単独での情報発信に限らない取組も有効だと考えられる。